グレートアース新聞

2024年9月
発行者：GEを大切に思う人たち
発行元：愛知県新城市黄柳野字池田663-1
第18号

2024年度、GEは10年目！

2024年度はGEが始まって10年です。年度初めにスタッフで話したことは、よりダイナミックに内容の濃いものが出来たら…ということ。10年積み上げてきた内容を更に充実させたいという思いがありました。年度が始まりGEを希望する生徒たちにも「やってみたいこと」などを聞いたところ、毎年行っている海のサバイバル、沢登りは人気です。ということで、10年目超ダイナミック計画を立て、「四国・海のサバイバル&沢登り」が実現しました。
他にも獲る、食べる、登る…と盛りだくさんの1学期。2学期以降も地球の素晴らしさを感じられる活動をしていこうと思います。

「四国海のサバイバル＆沢登り」2024.7.29-8.2

今年はグレートアースが誕生して10年の節目の年です。より中身の濃い活動をしよう！ということで発案されたのが、生徒たちに大人気の四国海のサバイバルのバージョンアップです。四国の魅力は海だけではありません。素敵な沢もたくさんあります。沢ヤ成瀬がやっているグレートアースで沢を知らないなんであり得ません。ということで、海+沢のスペシャル版で行いました。

祝・10年：スペシャル企画

報告① 海のサバイバル編

今年は初参加メンバー多数で開催。最初はシュノーケルをつけて泳ぐことすら不安なメンバー。「ちゃんと浮けるかな」「ちゃんと潜れるかな」と行く前から緊張気味。いざ、高知・大月町の海に入るとその美しさに皆、今までの緊張を忘れているようでした。水中には素晴らしいサンゴの世界。「ニモやドリーがいた！」と大喜びのメンバー。その素敵な世界をもっと近くで見たいメンバーは自然と潜りを始めます。
海のスペシャリストに教わったことを基に、見様見真似で潜ってみます。すると…思った以上に潜りが上手いメンバーが登場。それに刺激を受けて他のメンバーもチャレンジです。
1日目はサンゴに手が届くほど潜れるというわけには行きませんでしたが、彼らは2日目に進化しました。
進化の要因は「食！」案内された海には「シラヒゲウニ」というウニがいました。海のスペシャリストが1つ獲ってその場で食べさせてくれました。「うまい！」これが進化の大きなポイントです。あれを自分でも獲ってみたい。食べたい！皆の潜りスイッチが入りました。みるみる内に潜りが上達し、ウニを見つける目も進化を始めます。あっという間に網がいっぱいになり、今日はウニパーティー決定です。
喜んでいると「タコがいた！」と叫ぶ人が！その30分以上タコと格闘する人も登場。その間、何回潜ったことか。「タコに一撃食らわせた…けど、獲れない！」と叫びながら格闘中。他のメンバーはいつの間にかモリを手に海のスペシャリストの弟子になり、魚をゲットすべく粘ります。1時間以上、海に浮いて・潜って魚探しをしていました。結局、タコも魚も食料になることはありませんでしたが、彼らの潜りスキルは格段にアップしました。そして、午後…ここからが本領発揮です。午前中に悔しい思いをしているメンバーがしつこくモリを持って潜ります。そして、なんと！ウツボ・チョウチョウウオ・カサゴなどをゲット。あっという間にその日の夕食が豪華になりました。夕食はウニ・魚・貝・ウツボと海の恵みをたくさん頂きました。夜は満点の星に囲まれ「流れ星だ！」と人生初の流れ星体験をする人もいて、高知・大月町の素晴らしい自然に囲まれて過ごしました。海・最終日。片付け終了後にある生徒が「あ！大事なことを言い忘れていた！」と海に向かいました。すると数名の生徒で海に向かって「ごちそうさまでした！」と叫び、海の恵みに感謝の気持ちを伝えていました。今年も本当の「いただきます」と「ごちそうさま」が心から溢れてきた気がします。
もっと海で遊びたいな、獲りたいなという気持ちを持ちつつ、後半戦の活動場所へ移動するメンバーでした。明日からからは山の生活です。いざ！沢登り！

ウツボ、獲った！

シラヒゲウニで豪華、ウニ丼

美味しい、魚たち

探す、獲る、食べる↓生きる！

生きる力を発揮！

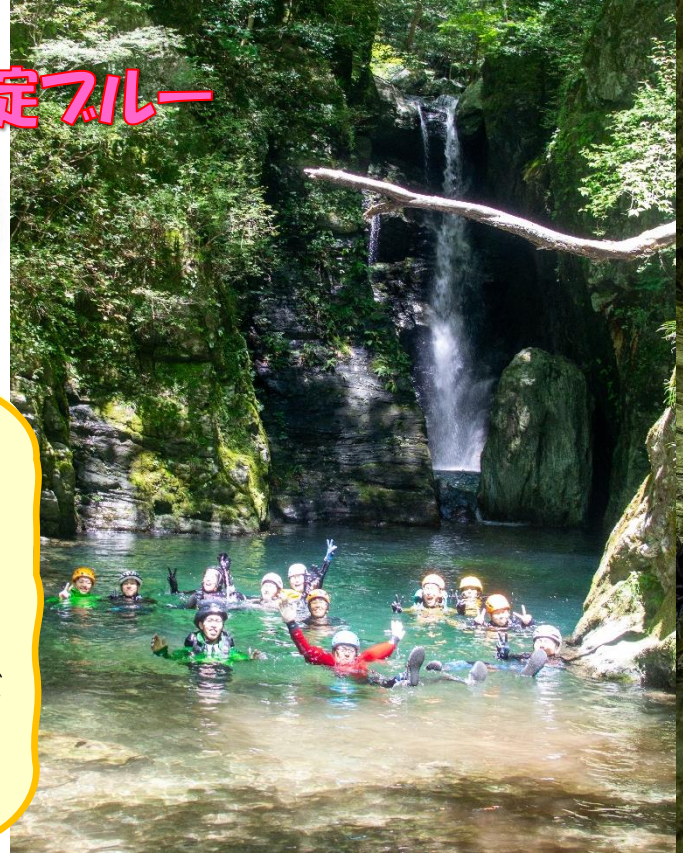
潜る！

生活する！

獲る！

仁淀川の源流・仁淀ブルー

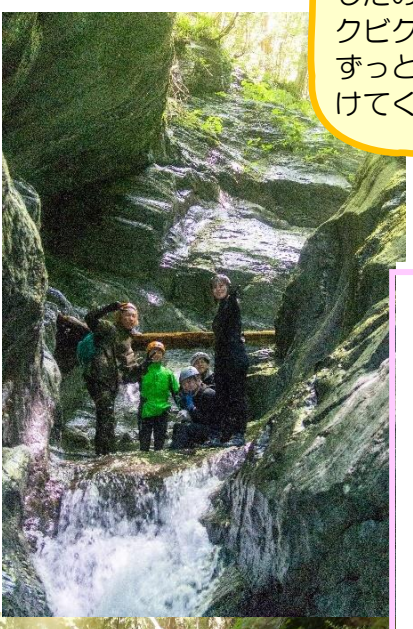
２年名倉来瑠美：休憩まで「ハイと怖い」しか言ってなくて、暗さがほんとに怖かった。陽が当たらなくて石も見えにくくて、ほんとに怖くて、ひたすら成瀬さんを追いかけて足跡ばっか見てたけど、だんだん陽が入ってきて余裕が出てくるとキラキラしてて綺麗さを見れて楽しくて、１番テンションが上がった。あんなに集中したのは初めてで、 いつも悪いとこでずっとビクビクしてて、後ろにいたのがおのちゃんで、ずっと大丈夫って言ってくれて、今回も人が助けてくれた感じでよかった。



沢ヤ・成瀬さんの真骨頂「沢登り」。１学期は各地で沢登りを行いました。身近な新城の沢・四国の沢。各地の沢の姿は全く違います。特に四国の沢はそのダイナミックさに生徒たちも魅了されました。

報告② 沢登り編

１学期は「沢登り三昧」



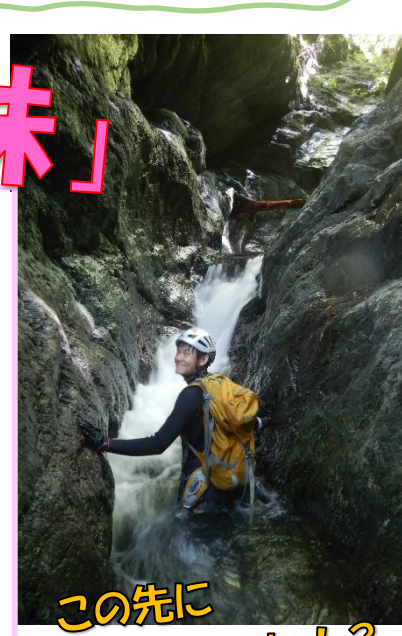
海から山へ移動したこの日。ちょっと休憩日ということで、仁淀川の源流で川遊び。皆の第一声は「冷たい！」です。そう！海は水は温かく快適温でしたが、川はそうはいきません。その違いを感じられるのも今回の活動ならではです。

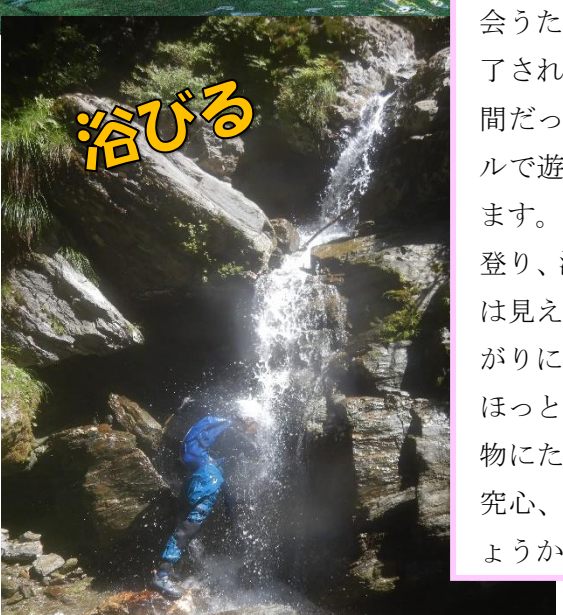
しかし、ここは日本随一の綺麗さを誇る仁淀川。その水の色に一同感動で、冷たいと言いつつも遊びまくっていました。そして、何より海の経験が生かされ、潜りが上手になっており、水中で自由自在に水と戯れていました。その姿はカワウソか…人魚か…海生活ではお風呂に入ることなく生活していたので、この日は川の真水でさっぱりしたメンバー。久しぶりに体のベトベト感なしで寝られました。そして、4 日目。いよいよ沢登り開始です。遡行予定時間は 7 時間。ちょっと頑張る日でもあります。あれ？2 年生女子の顔がおかしいです。表情が固まっています。お察しの通り、緊張しているのです。「歩ききれるかな」「滝登れるかな」と色んな思いがよぎります。とは言ってもスタート時間は訪れ、いざ出発です。スタートすると静寂の時間。そう、緊張していのはその女の子だけではなかったのです。どんな山行になるのか、ドキドキとワクワクがどの生徒にもあったようです。スタートして 30 分ほどは沢に陽が当たらず、暗い雰囲気であり、さらにメンバーの不安が募ります。そこに 1 つ目の滝登場。慎重に登ります。そして、少しづつ進むと明るいところが！日差しが入ってきているのです。そこから皆の気持ちも切り替わります。声が聞こえ出し、次から次へと出てくる滝や滝つぼや淵に感動。滝つぼではとにかく泳ぐ。

中盤、今回最大となる 15 メートルの滝が登場。「ここ、登れるの？」と、先ほどの女の子の表情がスタート時の顔に戻ります。ここは登る！登れる滝なのです。全員が一歩一歩丁寧に慎重に登ります。上部はロープを出してさらに慎重に登ります。そして、登った先には…

また、滝！！！この沢は大小さまざまな滝が出迎えてくれます。この先に何があるのか、進んでみないとわからない世界。それが沢登りです。

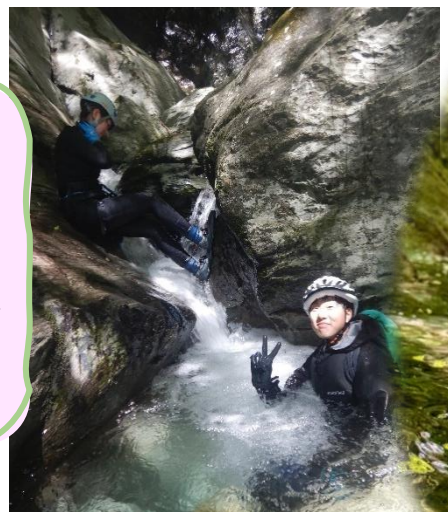
そして、その先を知りたくて歩みを進めてしまうのです。ちょっと怖いなと思いつつ、慎重に登っていく中で少しづつ沢の世界に溶け込んできた高校生たち。いつの間にか登れそうな場所を見つけ、登り出したり、誰よりも先に次の世界を見るために歩く人も出てきました。歩き始めて 5 時間。最後に出てきたのは素晴らしい滝と岩壁に囲まれた異空間プール。その色と造形に魅了され吸い込まれるようです。そして、その異空間プールでは飛び込みもできます。この素晴らしい世界に出会うために、沢登りをしている。成瀬さんが 40 年間魅了され続けた世界を高校生たちも少なからず感じた時間だったのではないでしょうか。思う存分最後のプールで遊び、まだ遊びたい気持ちを持ちつつも先に進みます。残りは小岩を超える時間が多く、たくさん歩き、登り、泳いだあとの身体にはこたえます。「まだゴールは見えない…」と弱音が聞こえてくるようです。足も上がりにくくなったその時、ゴールとなる橋が登場。一同ほっとした瞬間でした。大変だったけど、それ以上に宝物にたくさん出会えた沢登り。彼らの心は自然への探究心、遊ぶ心がさらに大きく膨らんだのではないでしょうか。





２年伊藤留光王：次の日はここを登るみたいに言われて、これ登れんのかみたいな気持ちで、次の日は下４枚来て、上２枚です意外と寒かったけど、行けたっちゃ行けたみたいな、登るたびにその滝を１段上がるたびに、なんか景色がこっちの方がいいなと思って、もう１回登ったらさっきよりいいなみたいな、そういうのが感じだったね、ずっと。なんか、最後に皆が飛び込んだとこもめちゃくちゃ綺麗だった。

２年宇佐美温大：滝、１個綺麗だなって思って、それ越えて また新しい景色が広がってって、なんか、１個滝を越えるごとになんかすごい世界が広がってて、めっちゃ感動しました。



「沢登り＆ハマグリ探し」2024.6.21-22

山と海の繋がりを体感

授業を飛び出す！GE。2024 年度最初に行ったのがこの活動です。GE の中で生徒に一番人気がある「沢登り」です。そして今回は黄柳野高校に身近な豊川源流域の沢登りをして、さらに河口にある豊橋港周辺の恵をいただいてきました。海と山の繋がりを感じる 2 日間。沢で遊び、胃袋で自然の繋がりを感じる時間でした。

沢登り編　報告

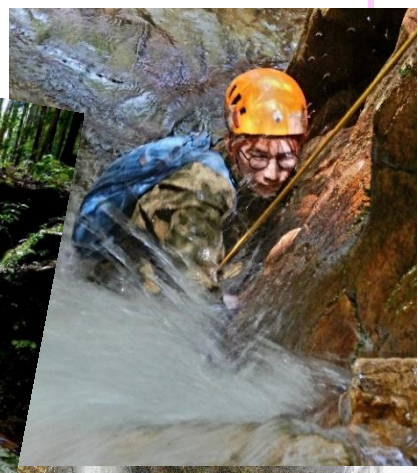
今回のテーマは「豊川流域の川と海の繋がりを体感する」ことです。初日は豊川源流域の沢登りです。数時間かけて行う沢登りは今年度初。今回の参加者は授業外 GE を体験することが初めての生徒も多く、スタート時は少し緊張気味。しかし、その表情が一変したのはすぐでした。入渓して見たものは、素晴らしく綺麗な水が流れる世界と一枚岩のようなきれない造形。そこを歩きだした途端に足取りが軽くなりました。進んでいくと、小さな滝も登場し、果敢にそこを登る生徒が登場。その時に浴びる水は冷たく、沢の洗礼を受けましたが、出てきた悲鳴は悲観ではなく歓喜の悲鳴でした。

奥に進むと若干難しい小滝があり、水に押されながらも登り、大変な生徒のために水流を止め、泳げる淵が登場すればあえて泳ぐ。その姿はまさにサンショウウと化していました。半分くらい進むとあきらかに登れない滝が登場。しかし、そこは沢ヤ成瀬の本領発揮です。水流のわずかな手足を頼りに丁寧に登ります。「すげえなぁ」と見ている高校生。到着した成瀬さんはロープをセットし、安全を確保すると生徒たちに滝登りのチャレンジを促します。最初に登ったのは探検部メンバー。日常のクライミングが役に立ちます。そして、初体験メンバーに続きますが、あきらかに顔が引きつっています。水が流れ、浴びながら、その中に手足を見つけて登る経験…どうなるのか想像ができない世界だったかもしれません。しかし、成瀬さんがロープを付けてくれたので、安全面は大丈夫。あとは自分自身の心の問題です。冷たい水を浴びながら必死に手足を見つけ登っていきます。あと少し、あと少しと生徒の心の声が聞こえてくるようです。最後の手足を滝の上に置いた時、その顔は喜びと安堵の両方が混じったような顔でした。沢登りの醍醐味を経験した瞬間だったのではないでしょうか。そして、メインとなるポットホールエリアへ。そこは緑の苔と水と岩が織りなす曲線と〇の世界。その吸い込まれるような不思議な世界にどの生徒も心奪われます。先が見えない沢の世界を進み出会った素晴らしい世界。その世界との出会いが沢登りの魅力です。滝が登れる実力は様々な生徒たちですが、それは大きな事柄ではありません。

参加者全員が自然の中で心躍らせ、感動し、自分自身も沢の一部になっていられるこの時間があったことに価値があります。

この経験をした高校生たちは決して自然やそこに住む命をないがしろにはしないでしょう。

大満足で帰ってきたメンバー、帰ってきてすぐに「今からでもすぐに沢に行きたい！」と言った 2 年生がいました。みんなの気持ちを代弁してくれたかもしれません。



2 年加藤日々嬉：一般 GE、私の体力的に厳しいところもあるって言ってくれててずっと不安だったんけど、でもそれも理解した上で行ったら、 沢登りがびっくりするほど楽しすぎて、拍子抜けって思っちゃって。楽ではなくて、陸路も使ったし、体力のある人たちと同じようにはいけなかったけど、でも、今までの自分と比べたら、全然、成長したなって思えて、それが良かったかなと思います。

命は繋がっている

ハマグリ編

でかい！干潟の宝発見！

自然の恵みをいただく時間

自らも自然の一部に…

2 年高橋希広：実際食べた時に、何種類かハマグリ、ツキガイ、サルボガイとか色々あったけど、やっぱりハマグリが 1 番美味しかったなって思いました。

2 日目はこの源流の水が流れ込む、豊橋の干潟へ。沢の水が集まり、栄養を運び到着した海には素晴らしい命が溢れています。近年、海の環境が変化しつつある状況を耳にしますが、それは海の問題だけでなく、繋がっている川・山の問題でもあるのです。それを感じるのがこの日です。感じ方は GE 流「食」です。この干潟にはハマグリがいます。3 年前にこの干潟と出会い、そこで干潟を守る活動をされている方とも出会いました。その魅力にハマり、毎年訪問しています。

今年は「不漁」と聞いていましたが、体感としてはやっぱり「少ない」。以前は歩けば当たるという感じでしたが、必死で探して見つけるのが今年です。

いったい何がこのような環境の変化を生み出しのか…そこに思いを馳せながらハマグリたちを探します。

開始当初は見つからなくて、「ちょっと不機嫌になりました」という生徒も。しかし、しばらくすると、「あった！！！」と声が聞こえ出します。そしてまた「あった！」と。ハマグリ探しではハマグリがいるエリアを見つけると比較的周辺にもいます。勝手にハマグリロードと名付け、そこを見つけるために浅い海を這いずりまわります。手足にハマグリが当たった時の嬉しさ、持ち上げたときのあの光沢は干潟の宝物といっても過言ありません。地元の方が美味しくないよと言って持ち帰らない貝も食べ比べるために持ち帰りました。不漁といいつつも、皆が食すには十分が量が取れ、他の貝にも出会い、干潟の命を感じられた時間でした。学校に帰ってからは貝の食べ比べです。まずは地元の方が進んで食べない貝です。

「あれ、おいしいじゃん！」第一声です。次の 2 番目にお勧めの貝です「さっきのよりもさらに美味し！味が濃いかな」そして、最後は今回のお目当てハマグリです。鍋を開けた瞬間の汁の色の違い、身の厚みに驚く一同。いよいよ実食です。「かんぱ～い！」

「う、う、う、美味すぎる！」と全員が声を揃えて言います。最初の貝もうまいと思ったメンバーですが、それをはるかに超える濃厚さとうま味の嵐。地元の人がハマグリを別格扱いする意味がわかりました。

海の恵みは川・山の恵みでもあります。自然は全てで繋がっているのです。それを 2 日間の五感と使った経験で、感じられた時間だったのではないでしょうか。

ハマグリのかんぱ～い！

肉厚でうまみたっぷりです！

2 年恒川玲：潮干狩り、最初全然取れなくて、ふてくされてブーブー言ってたけど、北田さんについってだんだん取れるようになって、めっちゃ嬉しいってなって、ツキガイはたくさん取れるから、雑魚扱い。雑魚とか言って取ってたけど、食べたら普通に美味しかったからごめんなさい。ハマグリもちゃんと取れて嬉しかったです。

「沢登り＆キャンプ」2024.7.16-17

自然の厳しさを目の当たりに

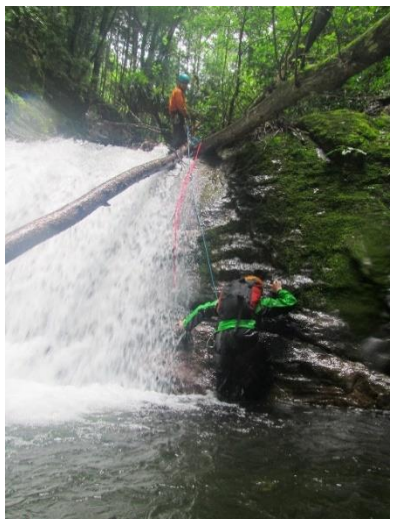
１日目は沢登りエリアでのキャンプです。梅雨末期、不安定な天気と局地的な大雨の合間を縫って、なんとかキャンプ地に着きました。テントを立てて、夕食は薪を集めて火おこしをして、美味しいカレーと焼きマシュマロで満足なメンバー。この間、青空も見えてとても快適に過ごせた時間でした。薪を集めて火をつけ、テントで寝ることも初めての生徒も多く、全てが新鮮だったようです。火付けに新聞紙は使いません。最初の焚き付けには乾いた細い木をたくさん集めて、空気が入るように沢に平行に薪を置きます。皆が知っているようなキャンプファイヤーのような焚火ではありません。自然の風や木を上手に利用することが大切です。そんなシンプルな生活は彼らにとって、五感や本能がくすぐられる経験だったように思います。そのあとは一生懸命に火遊びです。快適な夜かと思いきや、夜中に予報にはなかった局地的な大雨が襲来。テントには目が覚めるほどの雨粒が落ちてきました。ここで敏感になるべきことは山崩れなど、自然の変化です。あまりの雨の酷さに一旦、より安全な場所に退避しました。夜中だったので、たたき起こされたメンバーたちはぼーっとする頭を奮い立たせ、懸命に動きます。

１時間ほどで雨は弱まり、あっという間に夜明けとなりました。明るくなってから見た沢は濁流と大増水で全員が絶句。「あそこあった大木が流されてなくなっている…」と気づくメンバー。「ここに入ったら命がなくなる」と本能で感じたはずです。もちろん、この場所での沢登りはあり得ません。誰もが理解しています。

沢登りが出来ない…とがっかりな気持ちが湧きましたが、前日までの雨量と当日の天気を確認して、急遽、学校からほど近い沢に変更。移動を開始しました。「これで沢登りができる！」と期待を持って出発して 15 分ほど。なんと山の斜面からの土砂崩れを発見！車が通れる範囲の土砂だったので通行できましたが、大雨、沢の大増水、土砂崩れとなどを目の当たりにしたメンバーは改めて自然の驚異を感じたのではないでしょか。ニュース映像などで見るのとは違う、自らの経験で感じた時間。それは本物の時間だったと思います。1 晩のキャンプで自然の色々な姿を見たメンバーは、もう何日も過ごしているような感覚にもなりました。

火の偉大さ、楽しさを知る

夜の暗闇も貴重な時間



水を得た魚たち（高校生たち）

２年鈴木悠矢：２日目に最初に水に入った瞬間、この前のグレートアースの沢登りよりも気持ち良さがめっちゃ違って、なんか、もう、めっちゃ気持ちよくて、ポットホールはナルさんの説明で、去年も聞いていて、こういう理由でできるんだよって教えてもらってたけど、作られてる過程をその場で、生で見られてそれが、ちょっと、感動したところでした。
坂の途中の天井みたいになってるところも、なんか登れるかもみたいに思って、こんな危ないところで、立ち止まらないでって言われたけど、そこにも何かあって、そのピンクの可愛いものが見れたりした。あと、ミソサザイのなんか卵も見られて、ツバメとも違って、すごい出会いがたくさんあって楽しい沢登りでした。

自然の豊かさ・厳しさの両面を知る

２年恒川玲：１日目、すごい雨ひどくて、本当に行けんのっておもって、キャンプ場にすら行けないんじゃないかって思ってたけど、キャンプ場には行けて、それは嬉しかったの。でも川を見た瞬間絶望して、うわ！もうこれ絶対負けちゃうじゃんって。でも明日晴れるよねとか希望を持って、明日は川がなだらかになって、 底が見えるかもしれないって思って、めっちゃ期待してたけど、めっちゃ土砂降りになって、夜、テントから移動して車で寝て、１日目ちょっとがっかりなこと多かったけど、でも川の砂触ったり、それは楽しかった。あと木を集めて、火起こすとき、だんだん順番にやっていかないとみたいなのがあり、そうすると、湿った木も燃えるんだみたいな。なんかすげえとナルセさんすごい。あと、ガムテープで火起こせるの知らなかったから、新聞じゃないんだみたいな。それで、また 新しい知識が芽生えました。

そして、沢に到着！昨日までの自然の姿とは一変。美しい水と岩の世界。水を見るなり、どんどん泳ぐ出すメンバー。水を得た魚とは彼らのことを言うように思えました。
泳げる淵が登場すれば寒さを忘れて泳ぎまくる。滝が出てくれば登りたくなる。変な岩の空間を見つければ入ってみたくなる。それが彼らの姿でした。沢を心と身体で堪能した時間です。先の見えない沢登り、大きな岩や滝を超えた先の姿は進んだ人にしかわかりません。
その「この先に何があるんだろう・・・」という本能的な探究心が高校生たちの心をくすぐり、先へ先へと歩みが早くなります。今までない形状の滝などに出会う機会も多く、大満足な沢登りでした。やっぱり、沢遊びって最高！そんな心の声が聞こえた気がします。1 日目の自然の驚異、2 日目の自然の素晴らしさと両面を感じた 2 日間であり、その両面を体験しらからこそ彼らの心には自然の本物の姿が深く深く刻み込まれたのではないでしょうか。

理屈ではなく心が躍り感動する時間。これが地球を理解する最初の一歩だと思います。

編集後記（さ）
今年はＧＥが始まって十年の節目です。夏の活動もいつもよりパワーアップして行なおう！ということで、四国海のサバイバルと沢登りがセットになりました。そのため、それらに参加希望の生徒は一学期企画にも参加して自分自身を進化させてほしいと連絡してありました。一学期から連続して参加してきた生徒は当然、自然の中で過ごすスキルもアップしていましたが、あきらかに心が豊かになっていました。自分たちで生活する逞しさもそうですが、自然をより深く楽しんでいました。
自然の中で経験したこと、出会ったことで感じることが一歩深くなることで、世界が広がっていました。
四国でいただいた命たちに向ける気持ちも「ただ獲れて嬉しい」ではなく、命のあり方を考えました。
大雨の経験から自然の恐ろしさを体感し、楽しいだけない、地球の力を感じました。これは日本では避けがたい災害教育へも繋がっていきます。彼らは身を持って体験してきました。
彼らの経験は心が豊かになる経験です。ＧＥは何かのスキルアップをする活動ではありません。本気で遊び、本気で感じ、本気で考える。そういう経験をした感性は間違った生き方をしないと思います。全ての命が輝き、命を全うできる世界を作っていけると思います。
彼らが彼らの感性で見つけた、大切なものを忘れないでほしいです。そう願い十年目の活動をしています。